

イランカラッテ

豊かな自然と穏やかな気候に恵まれ、 アイヌの歴史と文化が息づくまち「しらおい」

白老町は、北海道の太平洋沿岸に位置し、北は支笏洞爺国立公園の一角を形成する山々に囲まれ、行政面積の約75%を森林が占めている自然豊かな町です。夏は冷涼、冬は降雪量が少ない気候で大変暮らしやすく、北海道の空の玄関新千歳空港から車で約40分と、交通アクセスにも優れています。

また古くより、アイヌの人々がコタン(村)を築き、安政3年(1856年)には仙台藩が陣屋を設置するなど、北海道の中でも比較的歴史が深い町でもあります。

その後、昭和35年(1960年)に大昭和製紙(株)白老工場(現 日本製紙(株)白老工場)の操業開始を契機に、その城下町として白老町は大きく発展を遂げます。人口の増加に伴い社会基盤整備も進み、昭和57年(1982年)には地方港湾白老港の建設に着手、その翌年には道央自動車道白老インターチェンジが開通するなど交通網の整備が進み、新千歳空港とあわせ陸・海・空において優れた交通利便性を有する町となりました。

平成7年(1995年)に第1商港区の供用が開始された地方港湾白老港は、平成26年(2014年)には-11mの岸壁を有する第3商港区の供用が始まり、平成19年(2007年)に初めて貨物取扱量年間100万トンを超えた以降、14年連続で北海道の地方港湾(道内23地方港湾中)において貨物取扱量1位となっております。

また、アイヌ文化の保存普及にも取り組んでおり、令和2年(2020年)には北日本初の国立博物館「国立アイヌ民族博物館」やアイヌ文化を五感で体験できる「国立民族共生公園」から成る「ウポポイ(民族共生象徴空間)」が開業され、観光客など交流人口の増加により更なる賑わいが創出されています。このことから、白老町では、お互いを認め合うことにより、多種多様な考え方や価値観が共生し、活力ある暮らしを形成する地域社会の実現に向けた「多文化共生のまちづくり」に取り組んでおります。

皆さまにおかれましては、本ガイドにより、白老町への理解を深めていただくと共に、自然と文化が息づく白老町への進出をご検討ください。

皆さまのご来訪をお待ちしております。



多文化共生のまち、しらおい
◇北海道 白老町◇

白老町長 大塩 英男



※「イランカラッテ」はアイヌの人々のあいさつで、「こんにちは」という意味です。

Contents もくじ

1	白老町の魅力	2
2	分譲地のご紹介	4
3	進出企業のご紹介	6
4	助成制度のご案内	8



しらおい 白老町のデータ

- 人口 16,212人(令和2年国勢調査)
※北海道の「町」の中で11番目
- 世帯 7,688世帯(令和2年国勢調査)
- 面積 425.64㎡
- 位置 北海道の南西部(札幌市の南約80km)
- 町域 東西28.0km 南北26.4km

産業

産業は、製紙業や食料品製造などの二次産業を中心に、豊かな自然に育まれた畜産・水産業など一次産業、観光業などの三次産業までバランスよく構成されている町です。

■産業別人口・15歳以上就業者(令和2年国勢調査)

産業	就業者数(人)	構成比(%)
総数(分類不能を含む)	6,558	100.00
一次産業	631	9.62
二次産業	1,667	25.42
三次産業	4,114	62.73

■工業・従業員4人以上事業所(令和2年工業統計)

産業分類	事業所数	従業者数(人)	製造品出荷額等(万円)
合計	44	1,469	6,404,584
食料品	23	721	1,333,648
繊維工業品	1	6	X
木材・木製品	3	68	176,776
パルプ・紙等	3	504	4,462,758
化学工業製品	2	17	X
石油製品等	1	9	X
窯業・土石製品	7	104	431,402
鉄鋼業	1	7	X
金属製品	2	11	X
その他の製品	1	22	X

※表内「X」は特定数値判明防止の措置です

●一次産業の概要●

(令和2年農林業センサス、平成30年漁業センサス)

- ◆農業 経営体53戸
家畜飼養頭羽数
肉用牛14,078頭、鶏1,256,264羽、乳牛558頭
- ◆林業 経営体11戸
素材生産量9,564㎡
特用林産物生産量(きのこ類)1,863.5トン
- ◆水産業 漁業経営体150戸
漁業生産高7,348トン・14億8851万円
主要魚種別生産量 スケトウダラ4,650トン
秋鮭155トン、毛ガニ33トン